

中・高校生の地震防災教育をお考えの方へ

1. 地震に備える必要がある

近い将来、宮城県沖地震が再発すると予測されている。地震では大きな被害が出ると考えられる。中・高校生の若者も含めて、県民全員が地震に備えなければならない。

2. 目標は「世代継続する地震に強いまちづくり」

地震に備える目標は、「世代継続する地震に強いまちづくり」である。これからの高齢化社会を考えると地震に強いまちづくりには若者（中・高校生）の参加が必要である。また、1995年の「阪神・淡路大震災」の教訓も風化しつつあると言われている。若者に世代継続していく必要がある。

3. 地震防災教育が必要

「世代継続する地震に強いまちづくり」に当たっては、若者への地震防災教育が必要である。地震防災教育には自分の身を守るための「自助」教育と、皆で助け合うための「共助」教育が必要である。

4. 「自助」教育とは

地震の発生メカニズム、地震によるいろいろな被害、地震から身を守る方法などを教える。

5. 「共助」教育とは

防災は会話から始まる。会話には「共通の知識」が必要である。その「共通の知識」として「木造住宅の耐震診断」を教える。この知識を習得して自主防災組織に参加することにより、大人との会話が可能になり自主防災組織での活躍の場を見つけることができる。

6. 木造住宅の耐震診断授業の内容

耐震診断授業の内容は、導入、展開、まとめの3段階からなる。

「導入」では、地震がなぜ発生するのか、そのメカニズムを教える。次に地震によってなぜ様々な被害が発生するかを考える。また、木造住宅がなぜ地震によって倒壊するのかなど、地震による木造住宅の被害について学習する。さらに、それらの被害によって生命・財産を失うことを教えると同時に、自分の生命・財産は自分で守ることの重要性を教える。

「展開」では、木造住宅の耐震診断の具体的なやり方

を学習する。その場合、木造住宅の具体的な例を示し、その例に示された住宅について耐震診断を行い、生徒全員に均一な学習ができるように心がける。

「まとめ」では、耐震診断の授業内容について再確認し、耐震診断の重要性を教えると共に、学校で学んだ知識を地域防災活動に役立てられること、また役立てて欲しいことを教える。

7. 教える学年、時間及び場所

中学生の1年～3年、高校生の1年～3年のいずれの学年でも木造住宅の耐震診断授業は可能である。時間はいずれの学年でも2時間～3時間で十分である。場所としては、各クラスごとの教室で行う。各クラス同時に授業を行うこともできる。

8. 授業を行う先生

授業を行う先生は、地元の建築専門家（財団法人宮城県建築士会会員）の方々がボランティアでやっていただけるような組織体制が整っている。

9. 教材

授業に用いるテキスト、模型、パワーポイントなど全てが用意されている。学校で用意するものはスクリーン、プロジェクターだけでよい。ただし、テキストのコピーだけはやっていただくことがある。

10. 自主防災組織への参加

若者に地域防災に貢献するよう呼びかけても、現状では容易に参加してもらえない。その理由として、若者が防災技術能力を保有していないことが挙げられる。若者が地域防災に自信を持って参加できるような防災技術能力の取得が重要である。木造住宅の耐震診断技術の取得を地震防災教育に導入することで、学校での学習知識をすぐにでも活用し、地震防災に貢献できる。このように若者が学校で取得した知識を地域防災で活用できる場を見つけることができれば、若者は喜んで地域防災活動に参加してくれるものと考えられる。そうすることで大人とのコミュニケーションが向上し、ゼネレーションギャップも解消し、皆が地震に備えて協力し合っていく心はぐくまれる。

さらに詳細な内容をお知りになりたい方は下記の連絡先まで御連絡下さい。

- 連絡先 -

〒982-8577

仙台市太白区八木山香澄町35番1号

東北工業大学ライフデザイン学部

安全安心生活デザイン学科 教授 田中礼治

（宮城県建築物等地震対策推進協議会会長）

TEL 022-305-3619 / FAX 022-305-3601

E-mail rtanaka@tohtech.ac.jp

〒980-0801

仙台市青葉区木町通一丁目6番34号 安藤ビル9F

社団法人 宮城県建築士会

TEL 022-262-2867 / FAX 022-262-4439

E-mail miyagishikai@s5.dion.ne.jp

URL <http://www.kenchikushikai.net/>

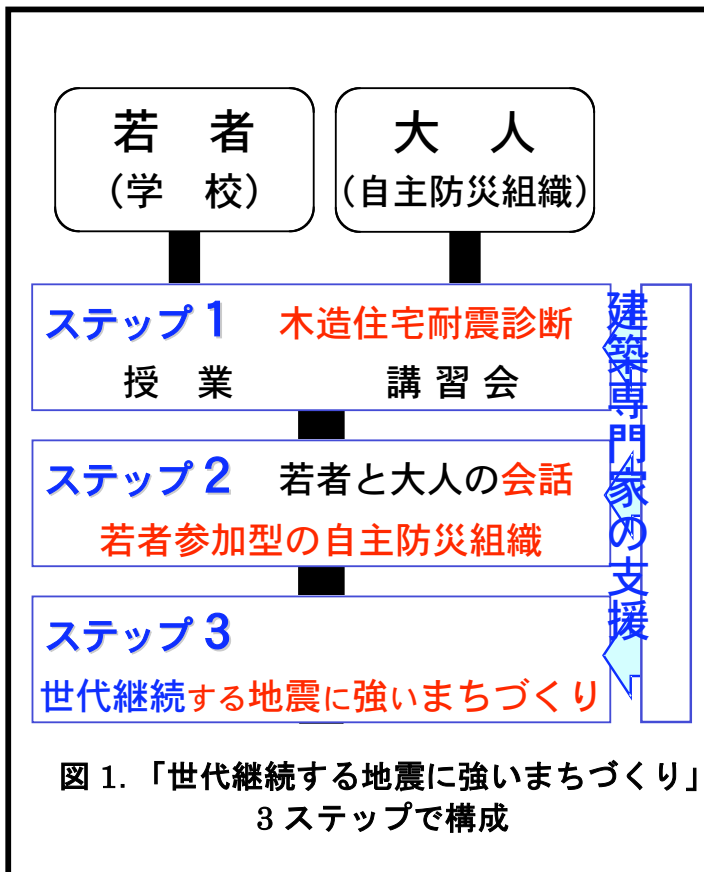
宮城県内の中・高校の皆さまへ

『世代継続する地震に強いちくをし 中・高校生の への支

宮城県沖地震の再発が予測されています。地震に備え、世代継続していくためには中・高校生への地震防災教育が必要です。地震防災教育には「自助」教育と「共助」教育があります。「自助」教育では、地震から身を守る方法などを教えます。「共助」教育では、中・高校生は地域住民の1人であることを認識させ、地域防災に参加しなければならないことを教えます。具体的には、「木造住宅の耐震診断」の方法を教え、学校で学んだ知識を用いて自主防災組織で活躍できることを教えます。

宮城県建築物等地震対策推進協議会および宮城県建築士会世代継続する地震に強いまちづくり委員会では、授業をサポートする支援活動を行っております。支援の内容を御紹介いたします。御参照ください。中・高校で地震防災教育をお考えの方は是非一度御相談頂ければと思っております。

宮城県建築物等地震対策推進協議会
社団法人 宮城県建築士会
世代継続する地震に強いまちづくり委員会
東北工業大学工学部建築学科田中研究室



「地震防災教育」の目標

目標は2つです。

①地震から自分を守るための「自助」教育。

②「世代継続する地震に強いまちづくり」に参加して活動するための基礎的な防災知識を教える「共助」教育。

「世代継続する地震に強いまちづくり」とは

地震に強いまちづくりをするだけでなく、風化しないように世代継続していく。そのためには若者の参加が必須です。

「世代継続する地震に強いまちづくり」のステップ

若者と大人を「会話」させることが基本的な考え方です。世代継続する地震に強いまちづくりは3ステップで構成されています。

ステップ 1

「世代継続する地震に強いまちづくり」は学校での地震防災教育から始まります。

「自助」教育では、地震から自分を守る方法を教えます。「共助」教育では、中・高校生は地域住民の立派な一員であることを認識させると同時に、地域防災に参加して活躍できるように「木造住宅の耐震診断」を教えます。

授業は地元の建築専門家が教えるような組織・体制が整っています。教材も用意されています。学校で用意してもらうのは2時間～3時間の授業時間の確保だけです。

ステップ 2

若者と大人の 会話



若者参加型 の自主防災組織



ステップ 3

世代継続する地震に強いまちづくり



住宅の耐震診断



まちの防災調査



まちの防災マップ作り



若者と大人の
総合防災訓練

ステップ 2

世代継続には若者（中・高校生）の参加が必須です。そこで、自主防災組織では、若者と大人が一緒になって「共通の話題」である木造住宅の耐震診断を通して会話ができる場所を設け、講習を通して若者と大人の会話の促進を図ります。そうすることによって、今まで地域防災に顔を向けなかった若者も参加するようになります。現状の自主防災組織が若者参加型の自主防災組織へと変化していきます。建築専門家が木造住宅の耐震診断を通して、若者と大人の会話が促進するようお手伝いします。

ステップ 3

若者参加型の自主防災組織ができれば、後は若者と大人が相談して防災についての震前対策、震後対策など種々の活動展開が可能になります。若者参加型の自主防災組織の活動および相談などを建築専門家が支援します。

これまで多くの賞を受けています。対外的評価は高いと考えております。

- ① 2005年1月、主催：毎日新聞社、子どもぼうさい甲子園 優秀賞
- ② 2005年2月、主催：総務省消防庁 防災まちづくり大賞 消防科学総合センター理事長賞
- ③ 2005年9月、主催：内閣府 防災まちづくりフォーラム、応用賞、最多得点賞
- ④ 2005年11月、主催：日本自然災害学会 防災マップコンテスト 防災力アップ賞
- ⑤ 2006年6月 「防災白書」（内閣府・平成18年度版）事例掲載